

碩心

社団法人 日本詩吟学院岳風会 認可
神奈川 碩心会 発行

現在会員数
162名
295名
64名
(521名)

60年2月
逗子地区
葉山地区
大船地区
(合計)

60年2月号 (151)
発行 者 萃
根 岸 岳 集
編 村 愛 岳
中

『国際青年年』に当り

逗子B支部 磯村 朋風

十年ひと昔と言いますが、母に勧められて何気なく始めた詩吟も、早や十一年経ちました。振り返ってみると、生まれて初めて「九月十日」を吟じた時、声は上ずり、身体中震え、無我夢中だった事を今でもはっきり覚えています。失敗を繰り返して、吟と悪戦苦闘し、戸惑いや自信喪失で、挫折しそうになりながら、その度に皆様方に励まされ、慰められて、もうひと昔になりました。

多くの詩吟を習い、又大勢の吟友に触れあって、ますます吟の難しさ、面白さ、奥深さに飽きる事なく年を積み重ね、気が付くと年令的に中年と呼ばれる域に達していました。これからは素直で余裕ある素晴らしい吟を目標に、もう一度詩吟の基礎をしっかりと修め、焦らず自分自身納得のいく吟を志したいと考えています。

週に一度のお稽古日は、気兼ねのない楽しいお喋りや詩吟で、あっという間に時間が過ぎ、無心で吟じているとストレスも解消されてしまいます。教場の皆様は、それぞれが魅力的な個性を持ち、気も、声も、

顔も生き生きと若さに溢れ、その上とても熱心な方々ばかりです。そんな時「私もこんな風に年を重ねたい」と思っています。

私にとって、詩吟も詩舞も、ずっと続けたい趣味の一つになりました。これも偏見に諸先生、諸先輩方のお力添えと、勧めてくれた母にも、今になって深く感謝しております。

本年は「国際青年年」に当ります。一人でも多くの若者に詩吟の良さを伝え、大きな「詩吟の輪」を広げながら、吟道と取組んで行こうと意欲を燃やしています。今後共皆々様の暖かい御指導と御鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

梅の香

ほんのり



平安末期の歌人、西行法師ゆかりの旧跡として知られる大磯の鴨立庵は、かやぶきの庵が老朽化し、全面改築のため解体されて、庵内はひっそりとした廃虚のたゞずまいで訪れる人も少いという。まさにあわれを知る西行の歌の幽玄の世界：そこにひと足早い春を告げて、早咲きの紅梅が咲きはじめているという。そしてその中に梅の香がほんのりとたゞよっていることであろう。

お知らせ

◎県本部主催・高段者審査会

七段 2/17 (日) 八段 2/24 (日) 皆伝以上 3/3 (日)

何れも平塚農業会館で

許証料・七、八段四千元 皆伝二万円
九、十段五千元(許証部中村幸岳方へ)

◎碩心会春期審査会

3/10 (日) 逗子図書館ホール

◎神・静・選抜者大会予選会

4/7 (日) 平塚農業会館。参加申込は地区長を通じて二月末迄に申込み、年令記入を忘れずに(神奈川・静岡から十名選出)

◎総本部夏期吟道講座

8/3 (土) 参加希望者は抽選の為なるべく早く申込みを(教務部竹石憲岳方へ)

◎全国大会参加吟行会

10/9 (水) 10/10 (祭) 六甲山 湊川神社 須磨浦公園 神戸(全国大会) 有馬 京都北野天満宮 詩仙堂 太奏映画村 他
旅行費・六万九千元 申込切2月20日頃
(各地区長へ申込のこと)

◎中国友好の旅

8/19 (月) 25 (日) 上海・蘇州(寒山寺)・杭州・桂林(山水の美) 他
旅行費・二十七万五千元 申込切5月31日(詳細は加藤岳相方へ)

◇堀内支部森戸明神奉納吟

一月一日午前零時三十分、根岸会長はじめ、堀内支部の吟友が神前において、列をなす参拝客の中、声高らかに初吟を行った。

◇碩心会初吟会

一月二十日、心配された予報がはずれ、風もない上天気に、三々五々集う吟友も何となく心はずんだ感じ。例年のことながら企画部長を軸に、担当(今年は沼間、桜山A・桜山B・葉月)の皆さん方のお骨折りにより、280名参加という盛会で、松井、常盤、鹿島各先生の御臨席をいただき、順調に、楽しく盛り上がり、昭和六十年の暮明けにふさわしい盛会ぶりでした。

◇堀内支部初吟会

一月二十三日(水)堀内会館で。納会は年忘れの言葉通り、すべてを忘れ、思い切り楽しく、初吟会は年の初めに当り厳粛を實踐寒さのためか、やゝ欠席が多かったのが残念。

◇県本部初理事会初吟会

一月二十七日、横須賀に於て高出席率のもと行われた。常盤本部長より、県外から

も注目の的である県本部であること、相談役松井岳洋先生も、30周年を終え、35、40、50周年に向けて出発する最初の日、理事多数の出席は心強いとの言葉がありました。

◇碩心会指導者初講習会

一月二十八日(月)桜山下会館に於て指導者42名中35名出席のもとに行われました。根岸会長より、前記関係行事等の説明がありついで各地区の代表吟が行なわれた。そして1月30日、満81才を迎えられる松井岳洋先生の力強い「建設の賦」と「歎はじめの歌」に大いに魅了され、あと和やかに一献かたむけ終りました。

◎入退会の届け出は早く

まもなく四月のきりかえ時になります。総本部費、県本部費、等の納入関係上、審査受審資格等の事務処理上、入退会は必ず三月中に総務部へ提出して下さい。

◎原稿募集

好きな詩、思い出の詩等に関する記事、詩に結びつく史蹟の紹介、教場便り等を。

(訂正)

先月号「クイズ」の答えの中、(1)は七言絶句の誤りにつき訂正。

書き初めと

楓橋夜泊

堀内支部D 三留 岑風

例年の行事、森戸明神での奉納吟も無事にすませ、気分さわやか、一杯の祝酒に寒さも忘れ、昭和六十年が始まりました。

私は毎年一月二日は書き初めの日ときめております。さっぱり上達はしませんが、今年「楓橋夜泊」書いてみました。その折、詩の疑問点、意味等がお手本に附記してありましたので、参考までに列記してみます。

月落烏啼霜满天 江楓漁火对愁眠

姑蘇城外寒山寺 夜半鐘声到客船

◇月の沈む時に烏が啼くのか？あのあたりは「烏啼山」と云う山があるので、「月は烏啼山に落ちて」と読むのか？

◇霜が天に満つるとはどういうことか

◇そもそも夜明けの風景なのか、夜中の風景なのか

◇末句に至って夜半の鐘声とは、夜中に寺で鐘を撞くのか。これも「半夜鐘」という名の鐘を夜明けに打つ音か。

◇楓橋：江蘇州蘇州府の西にある。交通の要路で張継のこの詩で特に有名になった。
◇江楓：川岸に並んで生える楓

◇姑蘇：蘇州の古称（春秋時代の呉の都）
◇寒山寺：えたいの知れぬ説教僧・寒山と拾得の住んでいた寺
以上何かの参考になればと書いてみました。

ちなみに新田大作先生監修の吟詠教本による通釈を書いてみると

月はもう西に沈み、烏の鳴く声が聞こえ空には霜のおりる気配が満ちあふれて寒さがきびしい。川岸の楓や、漁り火のあかりが点々と、寝そびれた目にうつる。なかなか寝つかれずにいると姑蘇の町はずれの寒山寺からであろうか、夜半を告げる鐘の音がこの船まで聞こえてきた。

◎練吟メモ

○京の四条の 糸屋の娘 (起句)

姉は十六 妹は十四 (承句)

諸国大名は 弓矢で殺す (転句)

糸屋の娘は 目で殺す (結句)

これは、頼山陽が、塾生に漢詩を教えるとき、よく引用した俗謡であるという。

○ご承知のとおり、絶句（律については省略）は、「起承転結」で構成されている。第一句では、右の詩のテーマである評判の「娘」をまず起し、第二句は、これを受け

てその娘をさらに細かく説明し、第三句は一転、諸国大名が現われ、そして、第四句でまとめをする。絶句は、中国唐代に完成した詩形であり、それが現在なお、言葉の違う隣国日本で活かしているということは、なんともすばらしいこと、いう外ない。

○常用漢字による表記の普及した今日でも大学入試でよく漢詩が出る。さすがに平仄については少なくなったが、押韻についての問いは相変わらず多い。いずれにしても、漢詩は起承転結で構成されていることを念頭において問題を分析すれば、なんとか解答の糸口はつかめるようである。

○雅楽の調子の言葉で「序破急」がある。今では、音楽の形式として一般化して珍らしくもない言葉であるが、能楽の演出においてはむかしから現在に至るまで、序破急は基礎原則となっているし、講談などでも話し方の調子は、今もってこれによっている。始め静かに、中はしだいに細かい変化をつけ、終りは節度が急切である。

○始めチヨロチヨロ、中カッカ、グツグツ煮えに火を引いて……と、ご飯を炊く法にも共通するなどと思いを巡らし、そして、ご夫婦の夜作（やさ）―教本（一）田園雑興―は、正にそのものずばりとか不謹慎極まる想像を巡らすに至っては言語道断である。

傾心会 60 年初吟会 会計報告

(60. 1. 20 於 逗子京急ビーチセンター)

収 入 の 部			支 出 の 部		
摘 要	金 額	備 考	摘 要	金 額	備 考
会 費	803,300	2,900×277	会 場 借 上 料	180,000	
指 導 者 会 より 寄 附	25,000		持 込 料	24,000	
祝 儀	28,000	鹿島岳久先生	心 付	8,000	
		逗子 A { 小林紫風様	弁 当	364,000	1300×280
		子 { 金指萌風様	つ ま み	84,000	300×280
		上山口 沼田竜山様	ビ ー ル	44,800	140本
		逗子信用組合様	飲 一 升 び ん	5,610	3本
あきびん代	4,000		物 酒 1 合 び ん	61,600	280本
及 値 引 分			伍 ジ ュ ー ス	28,000	280本
本部会計より補助	12,000		み か ん	21,000	3500×6
計	872,300		景 品 代	7,500	
			看 板 プ ロ グ ラ ム 礼	3,000	
			招 待 先 生 車 代	9,000	
			会 議 費	6,800	打合せ3回
			コ ビ ー 代	7,850	会場費 茶菓
			お 茶	900	200円
			消 耗 品 代	2,740	
			通 信 連 絡 費	1,500	
			担 当 支 部 へ お 茶 代	12,000	
			計	872,300	

昭和60年1月25日 以上の通り報告いたします。
 担当支部代表 沼間・清水耀風(印) 桜山A・荒木笙風(印) 桜山B・岡野和風(印) 葉月・青木梅風(印)
 企画部長・千葉香岳(印) 企画副部長・村田滯風(印)

(住所変更)
 401 和田句泉住所 逗子市逗子五十九三五六
 (入 会)
 674 石塚保子 葉山町堀内二〇六〇
 (堀内D) (電)〇四六八一七五〇八
 675 池田亜砂子(少) 逗子市逗子四一五一四一
 (真 澄) (電)〇四六八一七二〇八〇五
 676 森 昭良 横須賀市林二一六一一六
 (逗子A) (電)〇四六八一五七〇五六二
 677 米山茂子 横須賀市芦名二一八一〇
 (逗子A) (電)〇四六八一五六〇四七三
 (退 会)
 28 石田旭風(大船B) 63 佐藤誓風(逗子A)
 清水星山(山の根) 579 豊東信孝(堀内D)
 小池田鶴子(逗子A) 樋口宜嗣(逗子A)
 望月京子(上山口) 白井敬二(葉 月)
 高橋康泉(葉 月) 601 望月 薫(上山口)
 大河原はる(逗子A)

冬来りなば春遠からじ...春の訪れの待
 遠しい今日この頃です。雪の多かった昨年
 とガラリ変って、乾燥した日が続き風邪が
 大流行しています。のどを使う我々には強
 敵です。三月十日の審査も迫っています。
 くれぐれも御身御自愛下さいませよう。